

# ～これからの地域における新たな支えあいとして～



## 地域福祉を考える シンポジウム

主催 社会福祉法人グリーンコープ  
共催 NPO法人北九州ホームレス支援機構  
グリーンコープ共同体  
21世紀型地域福祉システム研究会  
後援 福岡県・福岡市

2009年3月20日  
福岡市

市民（地域住民）・行政が一体となって作り出す「地域の支えあい」をテーマにシンポジウムが福岡市で開催されました。

会場には、グリーンコープの各単協やワーカーズ、行政、地域でのたすけあいを実践しているNPOをはじめ各種団体など約300人が集いました。

### プログラム

- 講演1「北九州におけるホームレス自立支援の取り組み」と「抱樸館福岡」**  
NPO法人北九州ホームレス支援機構理事長 奥田 知志さん  
社会福祉法人グリーンコープ副理事長
- ホームレス支援団体からの報告**  
美野島めぐみの家 瀬戸 紀子さん
- 講演2 これからの地域福祉のあり方について**  
厚生労働省社会・援護局地域福祉課長補佐 千田 透さん
- パネルディスカッション**  
テーマ:地域における「新たな支えあい」を求めて  
千田 透さん(コーディネーター)  
吉田 直美さん(盛岡市消費生活センター)  
行岡みち子さん(グリーンコープ生活再生相談室室長)  
大川 絹代さん(社会福祉士)  
外井 京子さん(福岡市議会議員)  
平田 広志さん(弁護士・平和の森法律事務所)
- まとめ**  
社会福祉法人グリーンコープ理事長 行岡 良治さん

### 増える貧困層



千田 透さん

講演

## 地域のは、社会を変える

1990年代から経済はグローバル化し、能力主義や自己責任という風潮が急速に広がった。企業は業績の改善のために、人件費を大幅に削減し大きな利益を出している。加えて、高所得者の税率は70%から現在では40%になり、富裕層の資産増加に拍車をかけている。一方、年収200万円以下の給与所得労働者は全給与所得労働者の22%（2006年度）、非正規雇用労働者は、1995年には全労働者の20%だったが、2005年には33%

### 弱者へのしわ寄せ

このような社会状況の中で、貧しさと孤立が重なる弱立場の人々に大きな影響が出るのは必至だ。単身者の孤立死や孤立している家族の高齢者や児童への虐待、生活苦からの多重債務、多重債務からホームレスにというケースが多い。こうした問題の解決のためには、公的サービスの充実が当然だが、それだけでは対応しきれないのが現状だ。かつ

### 共同の力を生かして

協同組合の設立の精神は、たすけあいだ。「二人は万人のために」、万人は一人のために」をモットーとしている。生協法の改正も行われ、福祉活動を助成する事業も行えるようになった。日常的に強いネットワークを持ち、共同が実践されている生協は、地域福祉の担い手としての期待は大きい。特にグリーンコープは、高齢者福祉や生活再生事業など「共助」を生かした地域福祉に先駆的に取り組み、高い信頼を得ている生協だ。

### 福祉による地域再生の担い手として

現在、福岡県の生活保護の給付率は非常に高く、地域によっては3世代4世代に渡って生活保護を受けているところもある。ホームレスの数も、福岡県は全国で5番目に多い。中でも福岡市での増加率は全国一だ。行政の責任は大きい、行政だけでは解決できないのが現状だ。こうした中でグリーンコープの地域福祉の取り組みに期待している。

## グリーンコープは人と人が「たすけあい・支えあう」地域創りを始めます

経済不況がジワジワと市民生活の中に忍び寄せると同時に、派遣切りや雇用不安が社会を襲っています。職場を追われ、家をも失い、路頭に迷う人たちが増えています。

現在、福岡市には1000人を超えるホームレス者がいると推察されています。北九州市ではNPO法人北九州ホームレス支援機構の支援活動で、減少していた路上生活者が再び増加傾向にあるとされています。今や誰もがいつでも「失業」「貧困」「多重債務」そして「ホームレス」という問題に直面する可能性があります。

グリーンコープはこのような状況を何とか解決できないかと考え、生活困窮者の自立のための「家づくり」をはじめめることにしました。そのキーワードは「たすけあい」。人と人がたすけあいながら共に生きていける、そんな温かい地域の中でこそ、厳しい時代を生き抜く力を育むことができると考えました。

NPO法人北九州ホームレス支援機構と共同でホームレス自立支援に向けた取り組みをすすめ、「抱樸館福岡」を運用していくこととなります。そのための資金として近い将来、組合員カンパを募ることにします。また、厳しい時代を共にたすけあって生きていくための組織として「抱樸館を支える会（仮称）」を発足させることにします。

みんなの力を寄せあって、「たすけあう」社会を創り出していきましょう。

### パネルディスカッション

#### 地域における「新たな支えあい」を求めて

吉田直美さん

盛岡市は20年以上前から多重債務問題に取り組んでいる。単に相談を受けるというのではなく、相談者に寄り添う福祉実践し、行政が市民のためのセイフティネットとして機能している。

行岡みち子さん

ふくおかの生活再生相談室では、債務を整理しても生活費の困窮から、また借金しなければならぬ人が5割いる。グリーンコープでは、そうした相談者も安定して暮らせるように、生活費の貸付や家計管理を支援している。

大川絹代さん

ホームレスの自立のためには、住居や生活費の提供だけでは不十分。行政の委託を受け、ホームレスの相

平田広志さん

生活保護の受給権侵害問題や多重債務の問題にも弁護士会は取り組むようになった。市民がこのような問題を抱えないためには、行政の役割をもっと積極的に果たすべきだ。

外井京子さん

子育て応援特別手当は、一部の人の助成にしかならず、生活の困窮から学費を払えない世帯も多く、地方にはもっと切迫している問題もある。代理人運動をおして、地域のきめ細かい問題に取り組んでいる。

千田透さん

多重債務処理においては、借金の整理にも手数料が取られ、貧困産業とも思える。今回の報告のような地域での真摯で地道な取り組みが、地域行政を動かす国を動かすパワーになる。

### まとめ

#### 「共助」と「公助」が豊かに連携し、地域を再生する

行岡良治さん

ホームレスの問題や多重債務者の問題など、国や行政の責任は本当に大きい。これまで市民社会の中で「自助」や「共助」をないがしろにする傾向にあった自分たちの問題もある。互いにたすけあうことをとおして、安心して暮らせる地域を再生することが大切だ。千田さんの話にもあるように、福岡市のホームレスの状況は深刻だ。グリーンコープではホームレスの自立支援のために「抱樸館福岡」を開設する準備をすすめている。建設予定地の地域住民の了解をいただく必要があるが、準備をすすめている。人と人がたすけあうて生きていく「共助」と公の取り組みがタイアップし、人々が暮らしやすい時代をつくっていききたい。